

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は 104 円台を中心とするもみ合いか

[ 11月2日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		10月26日～10月30日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	104.76	105.06(26)	104.03(29)	104.24	-0.47
ユーロ・ドル	1.1845	1.1861(26)	1.1650(29)	1.1680	-0.0180

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	22,977.13	-539.46	日本10年債利回り	0.041	0.000
ダウ平均株価	26,659.11	-1676.46	米10年債利回り	0.823	-0.020

=====

<来週の主要経済統計等>

- 2日 豪9月住宅建設許可件数  
中国10月財新製造業購買担当景気指数  
独・ユーロ圏・英10月製造業PMI確報値  
米製造業PMI  
米10月ISM製造業景況指数  
米9月建設支出
- 3日 豪中銀(RBA)政策金利  
スイス10月消費者物価指数  
米9月製造業受注  
米大統領選挙
- 4日 NZ第3四半期雇用統計  
豪9月小売売上高  
独・ユーロ圏・英10月非製造業PMI確報値  
ユーロ圏9月生産者物価指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
米10月ADP雇用統計  
カナダ9月貿易収支  
米9月貿易収支  
米10月サービス業PMI確報値  
米10月ISM非製造業景況指数
- 5日 豪9月貿易収支  
独9月製造業受注指数  
ユーロ圏9月小売売上高指数  
英中銀(BOE)政策金利  
米新規失業保険申請件数  
米第3四半期非農業部門労働生産性指数  
米連邦公開市場委員会(FOMC)政策金利
- 6日 日本9月勤労者世帯家計調査  
独9月鉱工業生産指数  
カナダ10月雇用統計  
米10月雇用統計  
カナダ10月Ivey購買部協会指数
- 7日 中国10月貿易収支

【前回のレビュー】米国の追加経済対策関連の報道に左右されやすい状況が続くこととなりそう。ドル円は105円の節目からの下げは限定的で104円を大きく割り込むこ

とはないとみられ、104～105円台を中心とするもみ合いで推移する展開になるとした。

#### 【欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大が株式市場の重石に】

新型コロナウイルスの感染再拡大が続いており、28日は欧州株も米国株も急落した。米国株はNYダウが943ドル安となるなど、主要3指数は軒並み3%超の下げとなった。欧州でもDAXは4%超の急落となるなど全面安となった。29日にはやや落ち着きを見せたものの、感染再拡大の影響は続くと思われる。

フランスで10月30日から全土で大規模なロックダウン（都市封鎖）措置が導入される。フランスのマクロン大統領はテレビで、流行が加速しており、歯止めをかけないと病院に患者があふれるとの警戒感を示した。ドイツは11月2日から1か月間の部分的なロックダウン措置を導入して、飲食店、プールや事務、映画館や劇場などの文化施設などが閉鎖される。

欧米での新型コロナウイルスの感染拡大による実体経済への悪影響が警戒されて、リスク回避のドル買いと円買いに傾きやすくなっている。28日の海外市場では円買いの方が勝ってドル円は104.11円付近まで下落した。29日はロンドン市場で104.03円まで下落して、104円割れを試す展開となった。その後は下げ渋りを見ているが、一段の円高への警戒感はいくすぶり続けそうだ。

米国での追加の経済対策の協議は大統領選前に合意する可能性は極めて低くなり、市場の警戒感につながっている。こうした中、11月3日には米大統領選挙が行われる。現職のトランプ米大統領が勝つのか、事前の世論調査で優勢が報じられる民主党のバイデン候補が勝つのか、その動向が注目される。最近ではバイデン候補が優勢との世論調査が多く報じられてきたが、直前になってトランプ米大統領が巻き返しているとの報道もある。

今回の大統領選挙では、新型コロナウイルスの影響もあり、郵便投票が大幅に増加している。郵便投票は集計作業の遅れや不正を懸念する声もあり、その場合、トランプ米大統領が連邦裁判所に提訴する可能性まで出てきている。米大統領がすんなりと決まらない場合は、リスク回避の動きに傾き、円買いが進む可能性が高まりそうだ。

米大統領選ですんなりと大統領が決まるかが不透明となっており、こうした混乱の下では米国での追加の経済対策の協議が合意の至るにも時間がかかるとみられる。こうした中、株式や為替市場も大統領選や新型コロナウイルス関連の報道に左右されやすい動きとなろう。

米大統領がすんなり決まれば金融市場も短期間で落ち着きを取り戻し、11月第1週に発表される米雇用統計などの経済指標に反応しやすくなるとみられる。そうでない場合は、市場の混乱が続いて円買い圧力が強まりそうだ。米大統領選の混乱などが見込まれる中、ドル円は上値の重く推移して、104円台を中心とするもみ合いとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、103.00～105.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、2日に米製造業PMI、米10月ISM製造業景況指数、米9月建設支出、3日に米9月製造業受注、4日に米MBA住宅ローン申請件数、米10月ADP雇用統計、米9月貿易収支、米10月サービス業PMI確報値、米10月ISM非製造業景況指数、5日に米新規失業保険申請件数、米第3四半期非農業部門労働生産性指数、米連邦公開市場委員会（FOMC）政策金利、6日に日本9月勤労者世帯家計調査、米10月雇用統計などがある。

#### 【ECB理事会では金融政策は据え置き】

10月29日に開催された欧州中央銀行（ECB）理事会では、金融政策を据え置くことを決定した。ラガルド総裁は記者会見で「景気の下振れリスクは明らか」「ECBが12月に行動することはほぼ疑いない」「緊急に会合を開く必要があれば、行動に移すだろう。その準備はできている」などと述べた。次回12月10日のECB理事会かその前に追加緩和に動く可能性を示唆した。

ユーロドルは欧州での行動制限の導入による景気の下振れ懸念やE C Bによる追加緩和観測などを背景に29日の海外市場で1.1650近辺まで下落した。ユーロドルは引き続き上値の重い動きが見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1500～1.1750ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、2日に豪9月住宅建設許可件数、中国10月財新製造業購買担当景気指数、独・ユーロ圏・英10月製造業PMI確報値、3日に豪中銀（RBA）政策金利、スイス10月消費者物価指数、4日にNZ第3四半期雇用統計、豪9月小売売上高、独・ユーロ圏・英10月非製造業PMI確報値、ユーロ圏9月生産者物価指数、カナダ9月貿易収支、5日に豪9月貿易収支、独9月製造業受注指数、ユーロ圏9月小売売上高指数、英中銀（BOE）政策金利、6日に独9月鉱工業生産指数、カナダ10月雇用統計、カナダ10月IVEY購買部協会指数、7日に中国10月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。